

「福岡工業大学研究論集」投稿の手引き

●投稿方法

投稿論文は、和文もしくは英文とする。論文は、図書館ホームページ（図書館オリジナルサイト＞各種お申し込み＞研究論集）よりテンプレートファイル「福岡工業大学研究論集テンプレート（教職員用）」をダウンロードし、原則としてそのファイルを上書きして作成する。

投稿に関しては、以下のファイル一式を電子メールに添付して図書館事務室宛に送付し、印刷した原稿を2部提出する。（閱讀用および印刷会社の校正刷り作成の参考のため）

1. 原稿データ（<Author Name>.docx）
2. 原稿データをPDFにしたもの（<Author Name>.pdf）
3. 論文投稿申込書(kenkyuronsyu_shinsei.xlsx)
4. 別添の図（写真含）：論文で使用している図および写真等のオリジナルファイル。一般的なファイル形式とし、fig1.pdf のように識別しやすいファイル名としてください。
5. 機関リポジトリ登録申請書(FITrepository_shinsei.xlsx)

●執筆方法

I 論文

投稿論文は、和文もしくは英文とする。論文の作成には、原則として、図書館ホームページの研究論集テンプレートを使用する。

1. 原稿の構成

- (1) 原稿の構成は原則として次のとおりとする。
 - (a) 表題（和文の場合は英文併記）
 - (b) 著者氏名及び所属
著者氏名及び括弧の中に所属または課名を記載する。他大学や企業等の共著者がある場合は、共著者名及び括弧の中に大学名・学部名・学科名（または企業名、部・局名）を記載する。和文の場合は英文を併記する。
 - (c) Abstract（英文要旨）
研究内容を英文 100 語程度にまとめて記載する。
 - (d) Keywords
固有名詞・略号等を除いて原則小文字とし、5 組程度が望ましい。
 - (e) 本文、本論
図、写真、表などを直接挿入することができる。
 - (f) 参考文献
- (2) 原稿は、印刷したものを2部大形封筒に入れ、投稿申込書に楷書で論文題名、氏名及び本文・図表等の枚数を明記する。また、原稿ファイルを記録した電子媒体（CD など）を添付するか、電子メールで送る。
- (3) 大学院学生の修士論文要旨は、第(1)項の(a)・(b)・(c)及び(d)に準じて作成する。

2. 和文原稿の書き方

- (1) 原稿はA4 フォーマットで、MS-Word（またはTEX）を用い1 頁当りフォントサイズ 9 ポイントで 26 字詰め 49 行の 2 段組とする。

- (2) 原稿は横書きとする。
- (3) 原則として常用漢字・ひらがな・現代かなづかい・アラビア数字を用いる。
- (4) 術語は、文部省制定の学術用語又は各学会制定の用語を用いる。
句読点・括弧などは、原則として原稿用紙の 1 画を用いる。句読点は全角の“，”と“。”を使用する。
- (5) 字体は MS 明朝で、英数字は原則として Times New Roman とし、半角を用いる。
- (6) 文頭、改行の冒頭は一画空ける。
- (7) 氏名は、すべての文字を大文字で表記することを原則とする。
- (8) 氏名は、すべての文字を大文字で表記することを原則とする。

3. 英文原稿の書き方

- (1) 原稿は、A4 フォーマットで MS-Word（またはTEX）を使用し、1 頁当りフォントサイズ 9 ポイントで 49 行の 2 段組とする。
- (2) パラグラフの冒頭は、4 ないし 5 字分空ける。
- (3) 句読点は半角の“，”と“.”を使用する。

4. 用字・用語及び略語

- (1) 本文の区別は、大見出し・中見出し・小見出しなどを明確にし、それぞれ 1, 2, 1, (3) のような記号を用いる。
- (2) 外国語の人名や術語は、原語のつづりで書く。
- (3) 外国語の音訳は、カタカナを用いる。
- (4) 本文最初に使用されるローマ字省略語は、括弧内にそのつづりを書く。

例 CAI (Computer - Assisted Instruction)

LSI (Large Scale Integrated Circuit)

- (5) 次例のような紛らわしい文字の場合には、必要に応じて朱筆でフリガナや記号指定を施す。

1 (イチ) と 1, 1 (エル)
x (エックス) と × (カケル) 0
(ゼロ) と 0 (オー)

大文字と小文字

Cc, Kk, Oo, Pp, Uu, Vv, Ww, Xx, Zz

ギリシャ文字とローマ字

γ と r , χ と k , K , μ と u , ν (ニュー) と v
 v , ρ と p , ν (ウブシロン) と v , χ と
 X , x , ω と w

- (6) イタリック体・立体の区別に関する注意
指定がない場合、本文中のローマ字は立体、数式中ではイタリックとみなされる。従って、著者は本文中でイタリックとすべき文字にはイタリック指定 $_$ を、数式中では立体にすべき文字には立体指定 $\square$ 又 $\square$ は、その他必要な指定が求められる。

5. 数式

- (1) 数式には、組版したとき面積を取らないように表示することが望ましい。例えば

$$\frac{\cos \frac{1}{x}}{\sqrt{a+\frac{b}{x}}} \text{ は } \frac{\cos(1/x)}{(a+b/x)^{1/2}}$$

のように書く。

また、文中に式を挿入するときには、例えば、

$$(a+b)/c, \exp(-t/r), \ln\{a^2/(x^2+a^2)\}$$

のように書く。

- (2) 数式に付ける番号は一貫番号とし、行の末に括弧の中に入れて示す。
(3) 式の中の記号の説明は、式の下に入れる。例えば、

表皮の深さ δ [m] は

$$\delta = 1/\sqrt{\pi f \mu \sigma}$$

但し、 f : 周波数 [Hz]

μ : 導体の透磁率 [H/m]

σ : 導体の導電率 [S/m]

6. 図・写真及び表

- (1) 図・表は、番号を図 1・表 1 または Fig. 1・Table 1 のように書き、原稿中に挿入するか、または別紙として添付し、原稿中に挿入場所を指定する。
(2) 図・表を添付する場合は各図・表ごとに 1 枚ずつ厚手タイプ用紙か、厚手方眼紙（薄青色野のものとする。褐色・黄色などは使用不可）、又はトレーシング・ペーパーを使用して、刷り上がり寸法のおよそ 2 倍（面積 4 倍）に拡大して描

く。

- (3) 別紙で添付する図は、そのまま写真製版できる (camera-ready) 鮮明なものとする。但し、製版の縮小率を考慮して線の太さや字の大きさに十分注意すること。

図は墨又は製図用インクを用いて墨入れすることが望ましい。コンピュータによる描画も、鮮明なものであれば認められる。

- (4) 別紙で添付する図・表は、一枚毎にその余白に、投稿者氏名と図・表番号、及び縮尺の指定（幅寸法）を記入する。表題及び説明文は別紙に図・表番号順に一括して記載する。
但し、写真は厚めの台紙に添付することとし、刷り上りは原則としてモノクロームとなる。

7. 参考文献

- (1) 参考とする文献は、上付きの添え字¹⁾又は^{2, 4-7)} のように表示し、本文の末尾に列挙する。なお文献の番号は、原稿 1 編毎に一貫番号にする。
(2) 文献の記載方法は、次の形式を原則とするが、学問分野によって記載方法が異なるときはそれぞれの慣行に従うことは認められる。文献の著者が複数のときは全著者名を認載し、*...et al.* や ……等、などの第 1 著者だけを書くようなことは避ける。
(3) 雑誌の場合
以下の例のように、著者名:雑誌名、巻 (号) (発行年) 頁の順に記載する。
T. D. Xiao, K. E. Gonzalves and P. R. Strutt: J. Am. Ceram. Soc., 76(4) (1993) 987.
畠中憲之, 栗原 進: NTT 基礎研究所の研究活動, 4 (1994) 80.
(4) 国際会議などのプロシーディングスの場合
以下の例のように、著者名:プロシーディングス名、開催地、編者名 (出版社、出版地、発行年) 頁の順に記載する。
M. Kaminska, E. R. Weber and C. Jagadish: *Proc. 8th Conf. Semi-Insulating III-V Compounds*, Singapore, ed. M. Godleski (World Scientific, Singapore, 1994) p. 327.
(5) 単行本の場合
和書の場合は、以下の例のように著者名:書名、

発行所，発行年，頁（引用の場合）の順に記載する。

谷村 功：無線通信工学，コロナ社，昭和 35 年，p.105.

洋書の場合は，以下の例のように著者名・書名，編者（編者がある場合）（出版社，出版地，発行年）頁と順に記載する。

B. Jaffe, W. R. Cook and H. Joffe: Piezoelectric Ceramics, eds. J. P. Roberts and P. Popper (Academic Press, London, 1971)p. 136.

E. Podolski and G. Borman : Plasma Acceleration, ed. S. W. Kash (Stanford Univ., Stanford, 1960) 2nd ed, Vol. 1, Chap. 3, p12.

- (6) 雑誌の略記形式は，それぞれの学問領域の慣行に従う。

II 「学術論文，著書，学会等における講演」一覧表

1. 記載項目は，学術論文・著者及び学会等における講演の区分毎に，氏名・題目・発表機関及び年月を一覧表形式で記述する。用紙又は記述用媒体については別に定める。
2. 氏名の欄
 - (1) 氏名欄には発表の著者である本学専任の教職員及び本学大学院学生並びに学部学生の氏名を記載する。
 - (2) 共著者等がある場合
 - (a) 共著者等の代表が，代表者の所属する学科（教室・部課）内のときは共著者等の氏名を連記する。
 - (b) 共著者などが代表者の所属する学科（教室・部課）以外のときは（a）に準じて連記し，氏名に学科（教室・部課）名を記載する。
 - (c) 共著者等が，本学の者以外のときは「共著者 3」又は「Coauthors 3」等と記載する。
3. 学術論文は『掲載誌・巻・号・頁・年月』の欄に，掲載誌，巻，号，頁（年・月）の順に記載する。
4. 著書は『発行所・年月』の欄に，発行所（年・月）の順に記載する。
5. 学会等における講演は『掲載誌・掲載番号・年月』

の欄に，掲載誌，掲載番号（年・月）又は掲載誌巻・号，頁（年・月）の順に記載する。

6. 掲載誌については，誌名の統一を図るため，別表に示す主要雑誌略語表による。この表に含まれないものはできるだけ省略しないで表示する。
7. 年月は西暦年を用いて（1994. 6）のように記載する。
8. 用語
 - (1) 各項目毎に原則として日本文・欧文等の何れかに統一する。
 - (2) アルファベットによる氏名はファミリー・ネームを大文字で記載する。
9. 掲載誌等の記載例
 - a) IEEE Trans. Magn., Vol. 27, No. 2, pp. 845-848 (1993. 8)
 - b) 福岡工大研究論集，第 26 巻，第 1 号，pp. 21-28 (1993. 10)
 - c) 電学論 C, Vol. 113-C, pp. 102-110 (1993. 3)
 - d) 日本物理学会講演概要集，28P-YG-7 (1994. 3)
 - e) 平 6 九州連大，p. 500 (1994. 10)
 - f) 信学技報，PRU92-95, Vol. 92, No. 2, pp. 25-34 (1992. 9)
 - g) IEEE Ind. Appl. Soc. Ann. Meeting, Vol. III, pp. 1828-1835 (1994. 10)

III その他

1. 投稿者は，投稿規程第 4 条に基づき投稿論文原稿に同コピー 1 部を添えて附属図書館に提出する。
2. 投稿者は，オリジナルのファイルを必ず保存する。
3. 校正は，初校において万全を期し，二校・三校においては新たな追加・削除等は原則として認められない。
4. 校正には，日数をかけないように早急に行う。

平成元年 3 月 17 日

平成 2 年 11 月 9 日一部改正

平成 7 年 3 月 6 日一部改正

平成 9 年 12 月 2 日一部改正

平成 12 年 11 月 13 日一部改正

平成 18 年 11 月 29 日一部改正

平成 20 年 11 月 6 日一部改正

平成 23 年 3 月 23 日一部改正

令和 7 年 6 月 4 日一部改正

主 要 雑 誌 略 語 表

NHK技研NHK技術研究

—A—

略 語 雑 誌 名

ME 誌医用電子と生体工学
 応用物理応用物理学会誌
 第××回応物春季予稿集第××回春季応用物理学関係
 連合講演会講演予稿集
 第××回応物秋季予稿集第××回秋季応用物理学会学
 術講演予稿集
 画電学誌画像電子学会誌
 平××画電学全大平成××年度画像電子学会第△回全
 国大会予稿集
 計測制御計測と制御
 情報処理情報処理
 情処学論情報処理学会論文誌
 情処学××研資情報処理学会××研究会資料
 照学誌照明学会誌
 映情学誌映画情報メディア学会誌
 映情学技報映像情報メディア学会技術報告
 映情学会××研資映像情報メディア学会××研究会
 資料
 平××映情学全大××××年映像情報メディア学会全
 国大会講演予稿集
 電学誌電気学会雑誌
 電学論電気学会論文誌
 電学会××研資電気学会技術委員会××研究会資料
 平××電学全大平成××電気学会全国大会講演論文集
 信学誌電子情報通信学会誌
 信学論電子情報通信学会論文誌
 信学技報電子情報通信学会研究報告
 平××信学総全大平成××年度電子情報通信学会総合
 全国大会講演論文集
 平××信学△△全大平成××年度電子情報通信学会△
 △部門全国大会講演論文集
 平××連大平成××年電気四学会連合大会講演論文集
 平××△△連大平成××年（度）電気関係学会△△支
 部連合大会講演論文集
 ドクメン研究ドクメンテーション研究
 音響誌日本音響学会誌
 音響学会××研資日本音響学会××研究会資料

略 語 雑 誌 名

Appl. Opt.Applied Optics
 Appl. Phys. Lett.Applied Physics Letters
 Commun. ACMCommunications of the ACM
 Compt. & Oper. ResComputers & Operations Research
 Electron. Eng.Electronics Engineering
 Electron. Lett.Electronics Letters
 IEEE Electron Device Lett.IEEE Electron Device
 Letters
 IEEE J. Quantum
 Electron.IEEE Journal of Quantum
 Electronics
 IEEE J. Solid - State
 CircuitsIEEE Journal of Solid - State
 Circuits
 IEEE Trans. Acoust.,
 Speech & Signal
 Process.IEEE Transactions on Acoustics
 Speech and Signal Processing
 IEEE Trans. Aerosp.
 & Electron. Syst.IEEE Transactions on Aerospace
 and
 Electronic Systems
 IEEE Trans. Antennas
 & Propag.IEEE Transaction on Antennas and
 Propagation
 IEEE Trans. Autom.
 ControlIEEE Transactions on Automatic
 Control
 IEEE Trans.
 Biomed. Eng.IEEE Transactions
 on Biomedics Engineering
 IEEE Trans. Cable
 Telev.IEEE Transactions on Cable
 Television
 IEEE Trans. Circuits
 & Syst.IEEE Transactions on Circuits
 and Systems

IEEE Trans. Commn. IEEE Transactions on
 Communications
 IEEE Trans. Comput. IEEE Transactions on Computer
 IEEE Trans. Comput.
 Aided Des. Integrat -
 ed Circuits & Syst. IEEE Transactions on
 Computer Aided Design of
 Integrated Circuits and Systems
 IEEE Trans. Electron
 Devices IEEE Transactions on Electron
 Device
 IEEE Trans. Inf.
 Theory IEEE Transactions on Information
 Theory
 IEEE Trans. Magn. IEEE Transacitons on Magnetism
 IEEE Trans. Microwave
 Theory & Tech. IEEE Transacitons on Microwave
 Theory and Techniques
 IEEE Trans. Software
 Eng. IEEE Transactions on Software
 Engineering
 IEEE Trans. Sonics &
 Ultrason. IEEE Transactions on Sonics
 and Ultrasonics
 J. Appl. Phys. Journal of Applied Physics
 J. Opt. Soc. Am. Journal of the Optical Society of
 America
 J. Phys. Lett. Journal de Physique Letters
 Jpn. J. Appl. Phys.
 Part 1~2 Japanese Journal of Applied
 Physics Part 1~2
 Oper. Res. Operatons Research
 Proc. IEEE Proceedings of the IEEE
 Proc. x - th AU - FIT -
 NUST Joint Seminar Proceedings of the x - th Ajou
 Univ. - Fukuoka Inst. of Tech -
 Nanjin Univ. of Science &
 Tech. Joint Seminar
 Trans. IECE Japan
 (Section E) The Transactons of the Institute
 of Electronics and Communication
 Engineers of Japan